

# インターポート

兵庫教育文化研究所だより

No.231

2024年12月25日

発行所 兵庫教育文化研究所

〒650-0004

神戸市中央区中山手通4-10-8

## 第74次兵庫県教育研究集会全体会 教育シンポジウム 「子どもと災害にどうむき合うか」～もし2030年に巨大地震が起きたら?～ オンデマンド配信のお知らせ

第74次県教研が11月9日(土)・10日(日)に開催され、約2,700人の参加者を得て、成功裏に終わることができました。

教育シンポジウムは組合員専用ページから視聴することができますので、是非ともご覧ください。

大森直樹さん



東京学芸大学教授で、兵庫教育文化研究所防災教育部会協力研究所員の大森さん。これまでの備える防災教育から、今後は災害後の長期にわたる心のケアのとりくみにまで、防災教育の考え方を広げていく必要があります。3人のシンポジストの教育実践についての報告をもとに、これまで兵庫の教職員が積み重ねてきた教育実践の重要性を再確認していただきました。

元芦屋市立小学校教員で、自身も阪神・淡路大震災時に被災。以降、30年間「震災をわすれない」とりくみを実践してきた永田さん。教職員が被災した子どもたちと一緒に「生きることの意味」を見出そうとしてとりくんできた教育実践記録にもとづくお話は、発災から5年後、10年後の子どもの様子から始まります。



永田守さん

白石草さん



ビデオ・ジャーナリストとして、2013年から福島県の南相馬市立小高(おだか)中学校を継続的に取材してきた白石さん。原発災害後に小高中学校では何が起きたのか、教職員は子どもたちと災害にどうむき合ってきたのかを映像にまとめ、現地で感じた事実をもとに語っておられます。

姫路市立小学校養護教員で、238人からなる兵庫県震災・学校支援チーム(EARTH)の一員の三村さん。子どもたちの心のケアに尽力してこられました。本年1月発生の能登半島地震における先遣隊派遣の経験からのお話の中で、平時における子どもとの関わりがもつ意味についても語られています。



三村理加さん

視聴は二次元コードまたは下記リンクをクリック  
ID・パスワードは地域組合にお問い合わせください

[https://hyokyoso.net/etc/edu\\_cul\\_lab/research/index.html](https://hyokyoso.net/etc/edu_cul_lab/research/index.html)

★ 下記のTabをクリックしてください

第74次兵庫県教育研究集会全体会教育シンポジウム

- 教育シンポジウム動画
- 教育シンポジウム資料集データ
- 教育シンポジウム当日資料

資料もダウンロード  
できます

